

家事・ケアの分担および自動化技術利用に対する消費者需要：

Vignette 調査からみる仮想的な賃金、労働時間、価格変動による選択の影響

How Domestic Chores be Taken Care of When Hypothetical Wage and Hours Vary for Couples
and When Robot/application and Outside Help can be Used

大森義明（横浜国立大学国際社会科学研究院）

永瀬伸子（お茶の水女子大学基幹研究院）

エカテリーナ・ヘルトグ(Ekaterina Hertog)（オックスフォード大学インターネット研究所）

臼井恵美子（一橋大学経済研究所）

江天瑤（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

ルル・シー(Lulu Shi)（オックスフォード大学教育学部）

AI や ICT の利用は、働き方を大きく変えているが、家庭内の家事やケアも大きく変えていく可能性が高い。

本研究は下記のタイトルで日英共同研究として 2020 年から 2023 年にかけて「AI 等テクノロジーと世帯の無償労働の未来：日英比較」として実施してきたものである。日本側は JST-RISTEX による競争的資金 2020-2023 年：代表者 永瀬伸子であり、英国側は UKRI による競争的資金 2020-2023 年：代表者 Ekaterina Hertog の助成を受け、日英共同採択の形で行われたものである。

日英比較をすると、日本の男性の家事ケア行動は英国と比べても特段に低い。社会生活基礎調査(2016)と UK Time Survey(2014/2015)を用いて、家事・ケアを 17 種類に分けて、男女の家事時間や行動者率を比較すると、たとえば何らかの「料理」（献立を考える、食材だし調理する、食卓に並べるなど）を 1 日の中で行った行動者率を見ると、日本の男性は 15%であるが、英国は 54%と 2 人に 1 人である。また「掃除」（片づけ、ごみ捨て等も含む）についても、日本の男性は 9%に対して英国は 31%と 3 人に 1 人である（永瀬他（2023））。一方、女性についてみると料理は日本 72%、英国 80%、掃除は日本 43%、英国 65%であり、女性でも日本の方が英国よりも行動者率はやや低い。日本は「主婦」に家事が集中しており、男性や未婚女性の行動者率が低いことがこうした結果となっていると考えられる。

では、自分や配偶者の賃金や労働時間が現実と異なるものであったときにも、どちらかという妻が家事をすることが選択されるのかどうか。それとも、AI や ICT により、家事を自動化する機器があるとして、そうした機器を利用したり、あるいは雇用人を雇ったりするだろうか。それは機器や雇用人の生産性や価格にどう依存するだろうか。

Nagase et al(2023)は、線形ダミーの形でその影響を考慮したが、今回は、料理、掃除、介護、子どものケアなどによって、どう異なるのかを検討するために、対数変換をした賃金、価格、労働時間と家事生産性の影響を家事間で比較し、また、自分で行う、配偶者に頼む、ロボットを利用する、雇用人に頼むという選択の差について検討する。